

■肢体不自由支援学校における実践事例

学習意欲を引き出す読書活動

—子どものやる気に火がついた!

横浜市立中村特別支援学校
関戸 優紀子

はじめに

本校は、昭和57年4月に中村養護学校として、中村小学校と併設する形で開校しました。現在では小学部27名（訪問籍2名）、中学部24名（訪問籍1名）、高等部18名（訪問籍1名）の計69名の児童・生徒が在籍しています。近くに横浜市立大学附属市民総合医療センターや地域活動ホームがあります。

本校に通う子どもたちの発達段階は近年多様化しています。教育課程は自立活動の子どもがほとんどですが、知的代替、準ずる教育を行う子どもも在籍しています。興味・関心の幅を広げたい子どもの他に、言葉の習得を目指す子どもも増えてきました。

中村小学校と併設されている本校にとって、学校間の交流は、たいへん重要な教育と考え、積極的に行っています。交流によって、本校の子どもたちが受ける影響は大きなもの

がありますが、それ以上に中村小学校の子どもたちに与える影響も大きいです。ドア1枚で学校がつながっていますから、日常的に自由に学校間の行き来があります。

たとえば、昼休みに、中村小学校の子どもたちが本校の子どもたちにリコーダーの演奏を聞かせてくれます。また、小学生が本の読み聞かせをしてくれることもあります。運動会や避難訓練などの行事も合同で行います。また、教員間の交流も活発に行っています。

このような環境の中、特別支援学校側は、小学生に「何かをしてもらう」ことが多いのが現状です。そこで、マルチメディアDAISY図書を使用して中学部の生徒が、小学生に読み聞かせができないものかと考えました。また、四肢に不自由のある子どもの事例、そして言葉の習得を目指す子どもの学習に取り入れられないかということも研究してみたいと考えました。

研究に向けた準備



本校では、マルチメディアDAISY図書を使用したことのある子どもも教員もほとんどいませんでしたので、全校の子どもたちが通る廊下に設置されている棚に、伊藤忠記念財団から寄贈されたCD（わいわい文庫）やポスターを展示しました。CDは貸し出しも行うことにしました。その貸し出しCDに最初に興味を示してくれたのは、小学部6年生の女兒を担当する先生でした。担当する子どもの興味・関心の幅を広げたいという目的で、わいわい文庫を利用してみたいとのことでした。

それと並行し、伊藤忠記念財団からiPadを2台貸与していただきましたので、1台は中学部の外国籍の生

徒に、もう1台はその児童に継続的にあらゆる場面で使ってもらうことにしました。

事例1：小学部6年生女子A



<子どもの実態>

- ・興味・関心の幅が狭く、興味・関心の示せないものには寝てしまう傾向があります。
- ・好きなものに対しては自分から顔を向けたり、手を動かしたりします。
- ・スイッチを狙って手を動かすことができますが、身体に強い緊張が入りやすいです。

<取り組みの様子>

先に述べたように、まずは担任の先生から「わいわい文庫を試してみたい」という話を受けて取り組みが始まりました。数回試す中で興味・関心がかなり高まったそうです。

しかし、この児童がしっかり本を楽しんでいるのか。また、読むことの期待感があるのかなどを担任の先生はつかみにくかったようです。

そこで、PowerPointで作った自作のデジタル絵本を、スイッチでページをめくる操作を行えるようにしました。何度も取り組むと、そのページの文章が終わると自分からスイッチを押して、次のページに進むことができてきました。担任の先生もこの子どもが本を読むこと、また本のストーリーを楽しんでいることを実感できたそうです。

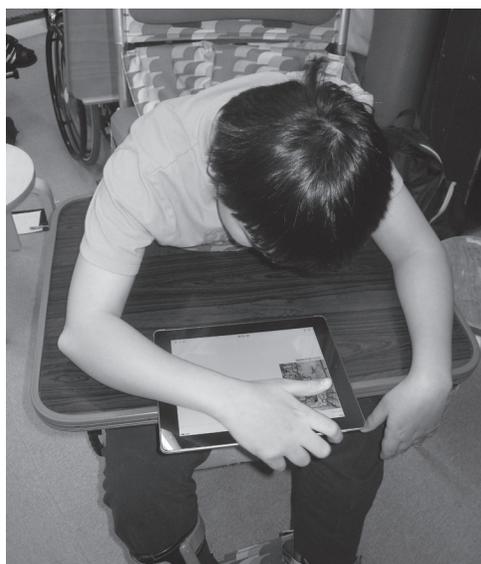
そして、パソコンを開き、本読みの準備をしているのを見るだけで、この児童が期待感をもち、笑顔を見せるようになったそうです。ただし、スイッチを操作する際にかなり身体に緊張が入り、スイッチを押したいのに身体はそり返り、なかなか押せず、汗だくになってしまうという点が難点でした。また、楽しくなり、気分が高まれば高まるほど身体の緊張が強くなってしまふとのことでした。

そこで、昼休みなど、この児童が楽しめ、かつ身体はリラックスさせたいので、iPadでVoice of DAISY (VOD)のアプリを使用しながら本読みをすることにしました。iPadはパソコンとは違い、臥位でも見やすく、場所も選ばないので使用するもの手軽です。まためくる動作がなくても読み進められていくため、リラックスしながら見て聴く読書が楽しめます。

この事例では、まずパソコンでわ

いわい文庫の作品を読むことで、本への興味・関心をひくことができました。そこから自分で読んでいるという実感を得るほどまでに興味・関心が高まりました。また、読書が休み時間の楽しみになるまでになりました。

事例2：中学部1年生男子B



<子どもの実態>

- ・フィリピンから昨年来日し本校に転入しました。現在まで日本語の学習を積み重ねています。
- ・大人の会話をよく聴いていて真似ることがあります。
- ・音楽が好きで日本語の歌詞の歌も数回歌うと覚えて歌うことができます。
- ・文字を読むことはできません。
- ・左手足に麻痺がありますが、iPadの操作は右手で器用に行えます。操作

することが好きです。

<取り組みの様子>

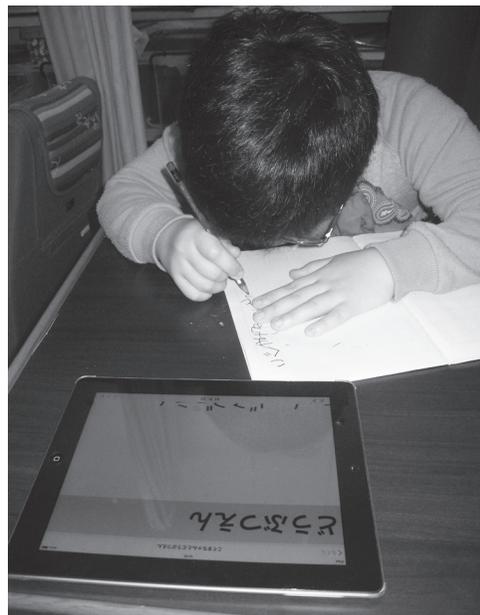
iPadの操作が好きな生徒でしたので、昼休みにVODアプリを使って本読みをすることを勧めてみました。ルールは「聞こえた言葉を繰り返し声に出して言う」です。初めのうちはなかなか聞き取れなかったようなので、少し速度を遅くしたり、間をとるようにしたりしました。

また、昔話は言葉の言い回しがむずかしいものや、現在ではあまり日常的に使わない言葉も多いので、『おおきなかぶ』や『お父さんはウルトラマン』『パンがパン』などを積極的に読ませました。たくさんの先生に「上手〜!!」とほめられ、毎日昼休みに取り組んでいくうちに、スムーズに言葉を真似するようになってきました。

今では、自分から「先生、お勉強（VODで本読みをすること）したいです」と言ったり、自分からアプリを起動させ、好きな本を本棚から選んで読んだりしていることもあります。

この取り組みを始めてから生徒の語彙数がかなり増えたこと、学習意欲が高まったことをクラス担任一同感じています。

事例3：中学部1年生女子C



<子どもの実態>

- ・気管切開をしており、発語はありませんが、不明瞭です。
- ・平仮名が読めます。
- ・指文字・手話でコミュニケーションがとれます。
- ・語彙が乏しいです。
- ・注意力が散漫で本を読むとき、文を読みとばすことが多いです。
- ・毎日音読の宿題を出しています。

<取り組みの様子>

平仮名の書字の学習をしているため、紙媒体の絵本を書き写すという課題に取り組んでみました。すると、目が絵本とノートを行き来するなかで、自分がどこまで書いたのかがわからなくなり、かなり読みとばして

・初めての人や物には慣れるまで時間がかかることがあります。

<取り組みの様子>

この生徒は言葉がここ数年でよく出てきたので、語彙数は少ないです。また、単語の一部だけ発音できたり、かなりゆっくりと一語ずつ発音したりして言葉の学習に取り組んでいます。

しかし、集中力もあり、デジタル教材への興味・関心も高く、意欲的に学習に取り組んでいます。そこで、聴いて見る読書としてVODアプリを使用し、昼休みなどに読書を楽しむようにしました。

そして、次の事例で挙げる課題の『やおやさんでおかいもの』に関しては、1ページずつ写真にし、写真カードを作り、出てくる野菜や果物の名前を言う学習をしました。宿題として家庭に持ち帰らせたところ、自分から出して学習に取り組んでいたそうです。

ただし、ただの写真カードでは、必ず大人がついて発語のチェックをしてあげなければならず、本人が学習したい気持ちのときに、しっかりと応えられないこともあります。

そこで、写真に音声タッチペンで音声が出るようにしてみました。すると、何度も一人で言葉言う学習ができるようになりました。VODアプリで『やおやさんでおかいもの』

を見せてみると、スムーズに言えるものも増えました。

事例5：中学部1年生 男女B～D



<学習内容>

中村小学校個別支援級の児童に、3人が読み聞かせ活動をすることを最終目的としています。それぞれの

実態や課題が異なりますが、「自分で読めた！」という満足感と、「読んであげられた！」という充実感を味わうことで、さらに学習意欲につながっていきたいと思い、取り組みを始めました。

<取り組みの様子>

まずは、『やおやさんでおかいもの』で取り組みを始めました。3人とも学校の近くに住んでおり、学校の近くにある中村橋商店街でお買い物をする生徒もいることから、日常生活に今後リンクさせることができるのではないかと思い、この本を選びました。3人にこの本を聴いて見てもらったところ、出てくる野菜や果物の名前を知らない生徒がいることがわかりました。

そこで、まずは実物の果物と野菜を用意し、画面の物とのマッチングに取り組みました。その際、繰り返しその物の名前を言う学習もしました。何度か取り組むことで、物の名前はわかるようになりました。

そして、売る人と買う人の役にわかれて本を読むことができるように

なりましたが、この本では、個別支援級の児童たちは内容が簡単すぎて、こちらが「読んであげた」という満足感は得られにくいです。そこで、現在は2月に個別支援級の児童たちを招いて発表会をするので、新たな本で読み聞かせの練習を始めるところです。

おわりに

わいわい文庫の貸し出しを4月から行っていますが、実際の利用者のごくわずかです。それというのも、CDではパソコンを使用するため、手軽さという点で本校にはなじまないようです。

しかし、今回の事例からマルチメディアDAISY図書がきっかけで学習意欲につながったり、いろいろな方法での読書活動への興味・関心が高まったりすることを実感しました。

今後も本校ならではのの中村小学校との交流教育とからめて、マルチメディアDAISY図書の活用について研究を続けていきます。